

令和6年度 第4回大和市文化芸術振興審議会 会議要旨

1. 日 時 令和7年1月20日(月) 14:00
2. 出席状況 委 員 7名(川染会長、明吉委員、加藤委員、小須田委員、
小林委員、泉水委員、橋本委員)
事務局 5名(文化振興課長、文化振興係4名)
3. 傍 聴 人 傍聴人 なし
4. 議 題
 - 1 開会
 - 2 審議事項
 - (1) 文化芸術振興基本計画[第4期](案)への意見公募手続きの結果について(報告)
 - (2) 文化芸術振興基本計画[第4期]答申案について
 - 3 その他
 - 4 閉会
5. 会議資料
 - 資料1 文化芸術振興基本計画[第4期](案)への意見公募手続きの結果
 - 資料2 第4期計画 答申案・修正案
 - 資料3 大和市文化芸術振興基本計画【第4期】案

【会議要旨】

- 1 開会
- 2 審議事項
 - (1) 文化芸術振興基本計画[第4期](案)への意見公募手続きの結果について
○市から、「文化芸術振興基本計画[第4期](案)への意見公募手続きの結果について」を説明。

【意見交換】

- | | |
|-----|--|
| 委員 | 美術鑑賞事業のボランティアとは。 |
| 事務局 | アートシャベルという名称の団体で、10年以上の歴史がある。研修を積み市立小学校で、美術作品を鑑賞して対話によって子どもたちの自発的な意見を引き出していくという対話型美術鑑賞の授業を行っている。 |
| 委員 | 時代背景の中で仕方がないことだが、できれば続けていった方がよいと考える。 |
| 事務局 | 全庁的に様々な事業の精査がおこなわれている中、団体の方などに声をあげていただいたことで、存続できる方向を検討しているところである。子どもたちに対する「芸術鑑賞」は方策3-1でイメージできる記載をしており、美術鑑賞事業を継続したとしても修正の必要はないと考えている。 |
| 委員 | 資料3 P17「体験型ワークショップ等」の中に「対話型美術鑑賞」が含まれるということか。わかりにくいので、文言の追加または他の文言に変えてもよいかもしれない。 |

委員	個別具体の話を入れて計画の適用範囲を狭めるはよくない。広くとらえられるような文言であるべき。
委員	美術鑑賞事業への意見しか寄せられなかったが、他の意見がないのはなぜか。文化への市民の関心が低いということか。
事務局	同時期に意見公募を行った他の計画への意見も少なかった。市民の計画への関心が低いとはいえるかもしれない。 文化施設等が整い、文化芸術に対する一定の満足感が得られているといえるのではないか。

(2) 文化芸術振興基本計画[第4期]答申案について

○市から、「文化芸術振興基本計画[第4期]答申案について」を説明。

【意見交換】

委員	答申③について。「歴史文化施設」を削除した理由は？
事務局	歴史施設だけに限るのではなく、広い意味で捉えてもらうために削除した。
委員	今日、デジタルの活用はあらゆる分野で当然のことになってきている。わざわざ歴史文化施設と特出しして記載しなくてもいいのでは。
委員	方策のタイトルに「地域の歴史・文化を知り」とあるので、「歴史文化施設」をわざわざ入れる必要はないのではないか。
委員	「歴史文化施設などにおいて」があると、より丁寧な文となるので、あるほうが望ましい。
委員	答申②について。団体間の交流の推進とは具体的に何を想定しているのか。
事務局	既存の取り組みとしては、学習センターまつりがある。新たな取り組みとしては、ホール開放事業において複数団体がコラボレーションする機会をつくったり、デジタルプラットフォームで情報交換の場を提供し団体同士が顔の見える関係を作るなどが考えられる。
委員	例えば、文化百花を充実させたり、複数団体が合同イベントを実施し県のマグカル展開促進補助金を活用しやすいように市がコーディネートとサポートを行うなど考えられる。
委員	市内団体が集まると、補助金の話ばかりになってしまう。各団体が自主的に活動する方向に導かないといけない。
委員	答申⑦について。コロナ禍で定量的な評価が難しくなったことがあり、定性的な評価を提案した。様々な視点をもち中身を見た方がよいとも考えていた。一方で、どのように定性的に評価をするのか難しい。
委員	文化芸術の評価項目は入場者数になることが多い。質の高さを評価項目に入れることは難しい。
委員	人数を目標にする際、「多ければ多いほどよい」となってしまっているのはよくない。来場者数が少なくても満足度が高いイベントなどもある。

委員	資料 3P36「歴史文化施設の利用者数 目標数値（R11）50,280 人」 「芸術文化ホール年間利用者数 目標数値（R11）306,018 人」は 実現可能な数値か。目標なので必ず達成しないといけないわけでは ないが、令和 5 年比で約 50%増は厳しいのでは。実現性がある数 値を設定してもよいかもしれない。
事務局	ホール利用者数については、過去の最大値を基準としている。上位 計画の総合計画で定められていると変更できない。
委員	利用者増のためには、今まで来ていなかった人と呼び込む必要があ る。SNS 等を活用するなど様々な方策が考えられるが、利用者増は 一筋縄ではいかない。
委員	遠出が難しい高齢者や心身に不自由のある方が、自宅から行ける範 囲内で文化芸術に触れるイベントや場所があるとよい。
事務局	コミュニティ音楽館は近くで聞けるコンサートとして各地のコミ ュニティセンターで実施されている。シリウスではバリアフリーコ ンサートも開催している。
委員	文化芸術の定義をわかっていない市民が多い。大衆芸能との違いな ど。意識改革が必要。
委員	やまとみらいまつりの一環として、ポラリスで、音楽、スポーツ、 トーク、読み聞かせがコラボレーションしたイベントに出演した。 好評だった一方、他分野との連携は労力がかかる。行政のバックア ップがあるとよいと思う。
委員	他分野との連携時、分野間をつなぐことができるコーディネーター 人材を育てる必要があるかもしれない。
委員	大学との連携事業はあるか。
事務局	青山学院大学で出張授業を行っている。
委員	かつて昭和音楽大学と大和市で何かできないか模索したが進展し なかった。
事務局	ホールの指定管理者に、大学等の団体から申し入れがあったら、前 向きに検討するように伝えている。

3 その他

○特になし

4 閉会